

1月 給食だより

2025年1月10日（金）
町田市立南つくし野小学校
校長 山崎 聡
栄養士

年が明けて、今年度も残り3か月となりました。引き続き、給食がみなさんの楽しみになるように、栄養士・調理員一同努めていきます。本年もよろしくお願いいたします。

1月24日～30日は、全国学校給食週間です！

【全国学校給食週間の由来】

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町（現：鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子供たちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA（アジア救済公認団体）」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日～30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

「全国学校給食週間」にちなみ、給食でも、各時代の給食をイメージした献立が登場します。この機会に、家族みんなで給食の思い出を話してみましょう。今の給食と昔の給食の違い、同じところなどを知ることができるかもしれません。また、給食の歴史や意義についても考えてみましょう。



給食は生きた教材



給食は、体の成長を支えるだけでなく、食品の栄養素の知識を学んだり、行事食や郷土料理を通して、文化や伝統を学んだりすることができる教材でもあります。

はんしん あわ じ だいしん さい ねん

阪神・淡路大震災から30年



災害時の『食』を備えましょう

1995（平成7）年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と決めました*。

阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

*2018（平成30）年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

災害時の食の備え



★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる
非常食

アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える
日常食品

お米、乾麺、乾物、日持ちの野菜・果物、調味料など

外出時の持ち歩き用品

飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくと安心です。

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。

【町田市教育委員会保健給食課からのお知らせ】

町田市では、2025年1月分から、市立小・中学校に在籍する児童・生徒の給食費が無償となります。1月分以降の給食費は発生しませんが、これまで給食費を口座振替でお支払いされていた方は、2024年4～12月分までの給食費の増減について、精算により引き落としや還付が発生することがありますので、5月末まで口座を解約しないようお願いいたします。

なお、給食費と教材費の口座が同一の場合は、5月以降も口座を解約しないようお願いいたします。